

国土審議会政策部会国土政策検討委員会
大都市圏戦略グループ（第1回） 議事概要

1. 日時

平成22年9月27日（月） 8：30～10：30

2. 会場

中央合同庁舎2号館16階観光庁国際会議室

3. 出席委員（五十音順）

浅見泰司委員、家田仁委員、大橋弘委員、奥野信宏委員長、進士五十八委員、高木敦委員、原田昇委員、松下正幸委員、村木美貴委員

4. 議事概要

(1) 開会

(2) 議題

【議題1 大都市圏の現状・課題について】

○ 事務局から説明。その後、意見交換。

- ・ 地方公共団体間の利害が一致しない場合、その連携を図っていくことは大変難しい課題であり、国の役割は大事である。各主体が全て満足するような折衷案ではなく、焦点を絞った取り組みを進めないと意味はない。
- ・ 日本の大都市圏は東海道新幹線によって一つに結ばれているという点が世界にない大きな特徴。これが、どのような効果を及ぼしたのか、今後どのように発展していくのかを評価・分析する必要がある。
- ・ 連担した市街地が都市鉄道沿線で広がっているも我が国の特徴。沿線を一体として捉えた「沿線プランニング」の概念も採り入れていくべきである。
- ・ 国際的な都市間競争の相手と差別化を図り、個性で競争に打ち勝っていくためには、経済的な価値だけではなく、自然・文化・歴史などの資産を総合的に捉えた戦略を考えていく必要がある。
- ・ 人の動きだけではなく、モノの動きからみてどのような都市圏の構造が大切なのかを検討することも重要。格差・高齢化社会という視点も盛り込むべき。
- ・ 民間の角を矯めないよう、ビジネス的魅力的視点を失ってはいけない。戦略を描く上で、時間コストをどのように扱うかということも重要。
- ・ 新しいロンドンプランからの示唆として、戦略方針も重要であるが、その方針を地方自治体が行政計画の体系の中でどのように受け止めるかということも計画の実効性の観点から重要。

- ・ 東京の競争力は明らかに低下しており、投資も逃げているのが現状。深刻な状況として受け止めるべきである。10年後の姿をどのように描くのか、どの分野を強化するのか、指標を設けるとともに、明確な視点を持つことが重要である。
- ・ 計画の実現性をどのように高めていくか。無難ではない戦略を作る必要があり、そのためには着地点をしっかりと見据えることが重要。
- ・ 広域的な中で環境保全などの地域の役割を詳細に示すべきではないか。
- ・ 企業の立場からすれば、どの国にではなく、どの都市に進出するかという視点で立地戦略を考えている。外資の誘致をする際には、方針だけではなく具体の政策が伴っていないと意味がない。

【議題2 今後の進め方について】

- 事務局から説明。今後の進め方について了承された。

(3) 閉会

(速報のため、事後修正の可能性があります。)